



コミッションとミサイルは語源が同じ | 金融・経済の英単語



「コミッション (Commission)」と聞いて「手数料」を思い浮かべる人が多いでしょうが、本来は商取引における「委任、委託」を意味します。「委員会」を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。-erをつけて「委員会の理事」という意味をもたせたのが、プロ野球でおなじみの「コミッショナー (Commissioner)」です。

委員会を表す英語にもうひとつ、committee という単語もあります。こちらは動詞 commit (過失などを犯す、委託する) の綴りに近いですね。

動詞の名詞形

commitment (委託、交流、犯行など) は、「コミットする」とか「コミットメント」という言い方で日本語化しています。この場合は「かかわり合い」「参加」「貢献」のニュアンスで使われているようです。ちなみに commitment は、金融用語で「有価証券の売買契約」という意味でも使います。

さて、commit の由来ですが、接頭辞の com- (この場合は「~に対して」の意味) と mittere (送る) というラテン語の動詞が接合してできました。「ある人に対して送る」ことから意味が転じて「委ねる」という意味になったのです。

このラテン語の mittere

という動詞は、実に多くの言葉のもとになっています。ラテン語系の接頭辞をつけて、思いつくままあげてみましょう。

○ ラテン語 mittere から派生した単語

接頭辞動詞形名詞形「前方」の ad-admit (許可する) admission (入場許可) 「外部へ」の ex-emit (出す、放つ) emission (紙幣発行) 「対立」の ob-omit (省略する) omission (省略) 「予め」の per-permit (許可する) permission (許可) 「再度」を示す re-remitt (送金する) remittance (送金)、remittance slip (入金伝票)、remittance advice slip (送金通知書)

動詞に "mit" という音が出てきますが、なかには -mise という過去分詞形が英語になった言葉もあります。

例えば「予め」のニュアンスをもつ接頭辞 pre- がついた premise (前提) などです。複数形の premises にすると、「譲渡財産、不動産」という意味がありますので、こちらも金融英語として覚えておきましょう。

「前方」を意味する pro- がついた promise (約束する、約束) の現在分詞形 promising は、「前途有望な」という意味です。形容詞形の promissory で覚えておくべき金融用語は、promissory notes (約束手形) でしょうか。

「離れて」の意味の dis- がついた
dismiss（解散させる、解任する）の名詞形は、dismissal（解散、解雇）です。

先ほどのラテン語 mittere（送る）の過去分詞から誕生した語に、message
があります。「送られるもの」という意味が転じて「メッセージ」になったのですが、これを運ぶのは
「メッセンジャー」 messengerです。

「ミサイル（missile）」は「送られ」たくないですが、これも mittere
から派生した語で、元は「送ることができる」という意味です。

文：猪浦道夫・天宮徹也（共同執筆）／編集：M&A Online編集部